れを整理する心の餘裕がありません。そこでここでは1960年10月31日に大和文華館の開館式が高松宮同妃両殿下を始め海外からも遙々出席された欧米人を含む全く文字通りの内外・朝野の名士のご列席の下にいとも盛大に挙行されてから1970年11月創立10周年を記念して先生が館長職を辞任された10年間における目星しい訪問客と先生とのほほえましい交歓風景を紙面の許す限り掲載して、ありし日の先生を偲び、私の追悼の辞に替えたいと思います。

なおこの号はおくればせながら矢代幸雄先生追悼の特別号とすることにしましたので、私以外に先生とお親しい間柄のお二人にご執筆をお願いしました。そのお一人の高橋公男氏は近鉄の重役時代から奈良交通株式会社の社長時代を通じて大和文華館の事務局長という資格で矢代先生を補佐され、先生の最も信頼された方です。今は東京都ホテル(仮称)建設準備委員会委員長として重責を負っておられます。もうお一人の谷田閲次氏

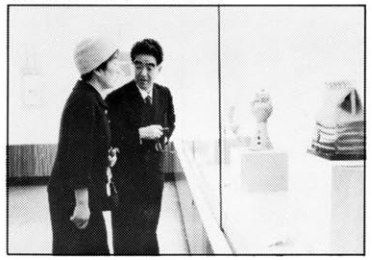
(裏面につづく)

は大和文華館が1946年5月、財団法人として発足し大阪府南河内郡にある名刹道明寺に最初の事務所を設けた時から1952年7月に大阪市東区船越町に事務所を移転した時代にかけて主事という資格で矢代先生を補佐されました。谷田氏は1954年5月に退任されましたが、いわば創業時代に重要なお仕事をされた方で、今は東京のお茶の水女子大学々長の要職に就いておられます。お二人ともお忙しい方々なのに貴重な時間を割いて御寄稿下さったことに対して深く感謝いたしております。

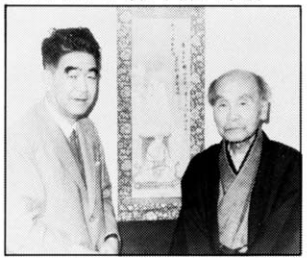
1967. 3. 12 講演のあと井上靖氏と

1967. 7. 19
ネパール国皇太子殿下(現国王)

1966. 10. 5
秩父宮妃殿下の御来訪



1962. 10. 21 右. 平櫛田中翁



1964. 5. 31 右. 故 A. ブランデージ氏

1966. 10. 12 ワシントンのナショナル・ギャラリー館長ジョン・ウォーカー御夫妻と先生御夫妻. 左 筆者

1970. 3. 16
皇太子同妃両殿下の御来臨

季刊 美のたより No.33
昭和50年 9月1日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.